

平成最後の年—日本の歴史と伝統を考える機会に

校長 原 田 尚 昭

新年明けまして、おめでとうございます。今年も宜しく申し上げます。「一年の計は元旦にあり」とはよく言われることですが、元旦でなくとも、3学期が始まった今日のこの日に、「今年はどうしたい」という希望、「3学期にはこれをする」という決意、そして、何であれ決めたことを「続ける」という継続、「希望・決意・継続」の「3K」を大事にして欲しいと考えています。「3K」と言えば普通悪い意味で使われるのですが、「希望・決意・継続」という、この3つのKは成功を手にする為の要諦(ようてい)ですので、必ず心に刻んで下さい。

さて、皆さんもよくご存知の通り、今年が平成最後の年です。4月1日には新しい元号が発表され、そして、5月1日に現在の皇太子徳仁(なるひと)親王殿下が新たな天皇陛下として即位されます。私にとっては一つ年上の方ですし、小さい頃から浩宮(ひろのみや)様と呼ばれて、ほぼ同じ時代背景の下に育ってきた方ですので、非常に親しみを覚えています。

今から30年前、昭和64年の1月7日に昭和天皇が崩御(ほうぎょ)されて、つまりお亡くなりになって、同日、当時の皇太子明仁(あきひと)殿下が新しい天皇陛下に即位され、その年は平成元年と呼ばれるようになりました。以来30年、様々なことがあった平成の時代でありましたが、皆さんも是非、それぞれの胸の中で「平成とはこのような時代であった」ということをしっかりと刻みつけておいて欲しいと思います。そして、大きな節目となるこの年に、私たちが生まれ育った「日本」という国が、建国以来今年で2680年とも言われ、途切れることなく続いてきた、世界の歴史の中でも非常に珍しい「奇跡」とも呼ばれるべき、素晴らしい国であることを再認識して頂きたいと思います。そして、これまでは学校で勉強するいろんな教科の一つであるくらいの認識しかなかった「日本の歴史」が、今の自分を作り上げる上で非常に大きな意味を持つものであるということを、これからの生涯を通して考え、学び続けていって貰えれば幸いです。

かく言う、この私自身もまだまだ日本のことがよく分かっていません。様々な日本文化や伝統、そして歴史について学び続けている「発展途上」の人間です。そして、私は元々英語の教師ですから、その学んだことを縦横無尽に英語で紹介できるようになりたいと考えています。この正月に、私はその手始めとして、宍粟周辺に伝わる様々な伝説や言い伝えを簡単な英語に訳していこうという誓いを立てました。もう既に2つ、千種と一宮の逸話を訳し終えました。これならば、退職してからも息長く続けていけそうですし、老後の楽しみともなるだろうと思っています。これは、私が高校時代3年間英語を教わった、波賀町にお住まいの岸元二六(ふたむ)先生が、78歳にして今も尚英語の勉強を続けておられ、同じ様に波賀町の昔話を英語で紹介するという活動を続けておられるからです。

平成最後の年、日本の歴史や伝統に目を向けると共に、皆さんも何か新しいことを始めてみてはどうでしょうか。